

題材の Point 形、色への感覚を刺激する

対象 学年 1・2年 配当 時間 45分

1. かたちあつめ いろあつめ



学習のめあて	アートカードの作品を見て、似ているところを見つけたり、友だちに伝えたりして楽しむ。
題材の目標	作品の形や色などに注目しながら、似ているところを探したり、選んだカードを友だちに見せたりしながら鑑賞に親しむ。
対象学年の (共通事項)	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと
育みたい 資質や能力	・形や色などに着目しながら、選んだカードについて、友だちと交流することを楽しむ。 ・形や色、表し方の面白さなどに気づく。
材料や用具	【教師】 ・アートカード ・拡大したアートカード(黒板掲示用) ・「かたち・いろカード」(p.38) 【児童】 なし
題材の 評価規準の例	【造形への関心・意欲・態度】 友だちといっしょに作品を見ることを楽しもうとしている。 【鑑賞の能力】 自分が感じたことを話したり、友だちの話を聞いたりしながら、作品の形や色、イメージなどに気づいている。

「あか」「あお」「しろ」「くろ」
「まる」「しかく」「さんかく」「しましま」
「ぐるぐる」「ぎざぎざ」「まっすぐ」
「ぐにやぐにや」「てんてん」 など

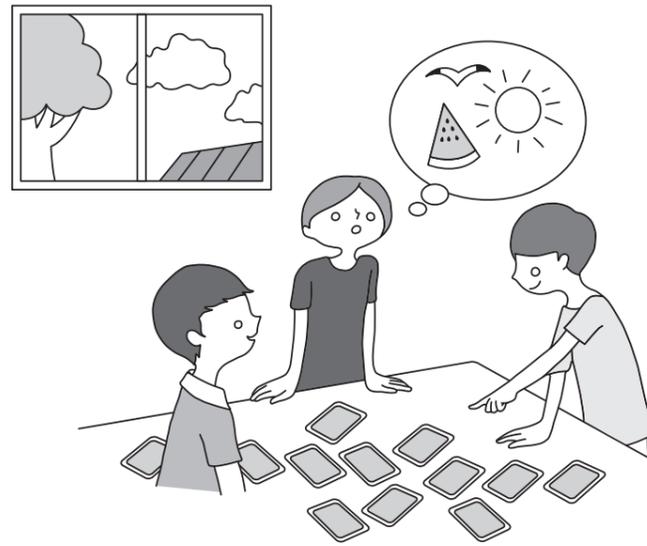
活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
であい (導入) 10分	1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。	○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 ○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。
ひろがり (展開) 30分	3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。 「カードに『あお』と書いてあるね。あおがかくれている絵はどれだろう。さがしてみよう。」などと児童に投げかける。 「なるほど!ここにもあおがあるね。ほかの絵にもかくれていないかな。もっとさがしてみよう。」など。 4.グループで活動を行う。 ・活動のルールを知る。 ・初めの1回は、教師の説明を聞きながら進める。 ・つづけて活動を行う。	○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 ・拡大した「作品カード」を数枚、黒板に貼り、教師が提示した「かたち・いろカード」に合うものを「作品カード」の中から探させる。 ・どうしてその作品を選んだのか、理由を簡単に発表させる。 *『試しの活動』で使う「かたち・いろ」カードは、2～3パターン用意しておくといよい。 ○活動のルールを伝える。 ・「かたち・いろカード」を1枚ずつ黒板に貼り、カードに書いてあるキーワードに合った作品をグループで協力して集める。(1回戦目のカードは…「あか!」など) ・ひとつの「かたち・いろカード」につき、児童が集める時間を2～3分と決め、できるだけたくさん「かたち・いろカード」で活動できるようにする。 *カードは、教師が選んで貼ってもよいし、児童に選ばせ、貼らせてもよい。 *児童の実態に合わせて「かたち・いろカード」を2枚にし、2つの条件を満たす作品を探させるなど工夫してもよい。
ふりかえり 5分	5.活動に使ったアートカードの中からお気に入りの1枚を選び、友達と見せ合う。 6.活動した感想を全体で発表し合う。	○活動に使ったアートカードの中から、1番気に入ったものを1枚選ばせ、お互いに鑑賞させる。 ○活動をふり返り、全体で感想を伝え合う。

題材の Point **実感を伴った鑑賞(生活科との関連)**

対象 学年 **1・2年**

配当 時間 **25分**

2. きせつあつめ



学習のめあて

アートカードの作品を見て、季節の感じを見つけ、友だちに伝えたりして楽しむ。

題材の目標

作品の形や色などに注目しながら、季節(春夏秋冬)の感じの出ているところを探したり、選んだカードを見せ合ったりしながら鑑賞に親しむ。

対象学年の (共通事項)

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

- ・ 形や色などに着目しながら選んだカードについて、友だちに話したり、友だちと見せ合ったりして楽しく活動する。
- ・ 作品について、さまざまな見方や感じ方があることに気づく。

材料や用具

- 【教師】
- ・ アートカード
- ・ 拡大したアートカード(黒板掲示用)

【児童】
なし

題材の 評価規準の例

- 【造形への関心・意欲・態度】
友だちといっしょに作品を見ることを楽しもうとしている。
- 【鑑賞の能力】
自分が感じたことを話したり、友だちの話を聞いたりしながら、作品の形や色、イメージなどに気づいている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入) 10分</p>	<p>1.身のまわりの季節の変化・感じを確認する。</p> <p>2.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。</p> <p>3.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○季節の変化や感じをとらえられるような声かけをする。</p> <p>○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。</p> <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。</p>
	[グループ]	
	<p>4.グループで活動を行う。 ・グループで協力して、春(今の季節)を感じるアートカードを探す。</p>	<p>○グループで春(今の季節)を感じるアートカードをできるだけ多く探させる。 ・作品の中の形や色、ものなどに注目させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。</p>
	[個人]	
<p>ひろがり (展開) 10分</p>	<p>5.他のグループがどのようなカードを集めたか、見てまわる。</p>	<p>○それぞれのグループが集めたカードを見てまわらせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*集めたアートカードの中から、気に入ったカードを1人1枚選ばせてもよい。</p> </div>
<p>ふりかえり 5分</p>	<p>6.活動した感想を全体で発表し合う。</p>	<p>○活動をふり返り、全体で感想を伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*四季を通して活動を行い、カレンダーをつくることもできる。</p> </div>

題材の Point **からだ全体で感じとる鑑賞**

対象 学年 **1・2年**

配当 時間 **45分**

3. まねっこ びじゅつかん



学習のめあて

アートカードの作品を見て、作品に表現されている人物や動物等になりきって楽しむ。

題材の目標

作品の中に表現されている人物や動物等に着目し、その動きや表情をジェスチャーで真似しながら、作品と一体になり鑑賞に親しむ。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること
イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

- ・ジェスチャーを友だちと見せ合ったり、アドバイスをし合ったりして楽しく活動する。
- ・作品をよく観察してポーズや表情を真似することで、全身を使って作品を理解し、鑑賞に親しむ。

材料や用具

【教師】

- ・アートカード
- ・カメラ(あるとよい)

からだ全体を使うため、机を下げるなど、スペースを確保する。活動する場所は、体育館など広いスペースだと、なおよい。

【児童】

なし

題材の 評価規準の例

【造形への関心・意欲・態度】
友だちといっしょにジェスチャーをしたり、見せ合ったりして、楽しもうとしている。

【鑑賞の能力】
作品に表現された人物のポーズや表情などを見て、なりきろうとしている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
であい (導入) 10分	<p>1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。</p> <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。</p> <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。</p>
ひろがり (展開) 30分	----- 【全体】 -----	
	<p>3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。 ・黒板に提示してある拡大されたアートカードの一枚を教師と一緒に真似して、なりきることを楽しむ。</p>	<p>○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 ・黒板に拡大したアートカードを掲示する。 ・作品に描かれた人物の表情やポーズを、発問を通して細かく見ていく作業を全体で行い、クラスみんなで真似してみる。</p>
ひろがり (展開) 30分	----- 【グループ】 -----	
	<p>4.グループに分かれ、円になって座って行う。 ・活動の準備として、アートカードの中から人物が描かれているカードを探し、残りは片付ける。 ・活動のルールを知る。 ・グループ内の順番を決める。</p> <p><活動例1> 「絵の中の人物が1人のもの」 ・アートカードを円の中心に裏にしておき、順番にカードを1枚めくってほかの友達に図柄を見せて、その人物の真似をする。 →うまくできたら、拍手をする。</p> <p><活動例2> 「絵の中の人物が複数人のもの」 ・グループのみんなで絵をじっくりと見て、誰がどの人物を真似するのかを決め、ポーズや表情をお互いにアドバイスし合う。 →他のグループへ発表する。</p> <p><活動例3> 「ジェスチャーでどの絵か当てさせる」 ・アートカードを絵の中心に表にして並べ、順番にその中の1枚を選び、人物のジェスチャーをする。 →見ている児童は、どのカードの真似をしているのか、当てる。</p>	<p>○活動のルールを伝える。 ・活動の準備として、アートカードの中から人物が描かれているカードを探させ、残りは片付けさせる。 ・グループごとに円になって座らせる。 ・ポーズができていない児童は、表情や視線にも気をつけさせたい。 ・うまくできたら、見ている児童には、拍手をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*動物画、抽象画、彫刻のアートカードなどを使ってもよい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>描かれている人の表情にも注目しよう。</p> </div>
ふりかえり 5分	<p>5.活動した感想を全体で共有しあう。</p>	<p>○活動をふり返り、全体の場で感想を共有しあう。</p>

題材の Point **イメージを膨らませる**

対象学年 **3・4年** 配当時間 **45分**

4. 「オノマトペ」トーク

※オノマトペとは、「さらさら」「とんとん」などの擬態語・擬声語のこと。



学習のめあて

形や色などの感じを大切に、自分のイメージを友だちに伝える。

題材の目標

形や色などの感じを基に、作品に対する自分のイメージをもつ。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

・自分の感覚を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえる。
・感じたことを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりすることによって、作品のよさや面白さを感じとる。

材料や用具

- 【教師】**
- ・アートカード
 - ・拡大したアートカード(黒板掲示用)
 - ・「オノマトペ」カード(p.39)

【児童】

なし

題材の 評価規準の例

【造形への関心・意欲・態度】
オノマトペから連想される作品を選び、よさや面白さを友だちに伝えようとしている。

【鑑賞の能力】
オノマトペから連想される形や色の感じを基に、自分のイメージをもとうとしている。

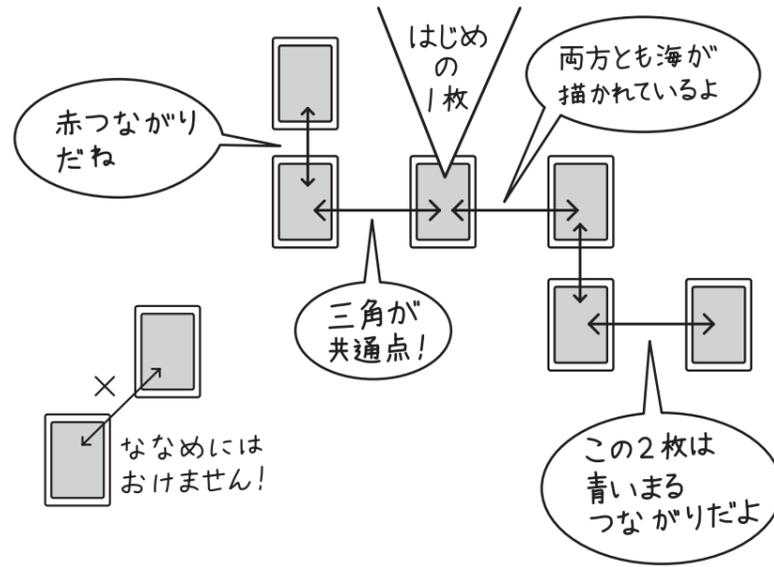
活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入)</p> <p>7分</p>	<p>1.アートカードにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを知る。 ・4~5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○アートカードの紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。
<p>ひろがり (展開)</p> <p>30分</p>	<p>3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オノマトペ」カードを使った活動を知ることを知る。 ・「オノマトペ」カードを代表の児童が引き、出てきたオノマトペに合うカードを心の中で選ぶ。 ・教師の「せーの!」の合図で、選んだアートカードに指さす。 ・グループの中で、順番になぜそのアートカードを選んだのか、カードをグループ内に見せながら説明をする。 ・同じアートカードを選んでいても、自分の言葉で説明する。 <p>4.グループごとに活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オノマトペ」カードをもらう。 ・リーダーを決め、リーダーが「せーの!」の合図と司会をする。 	<p>----- 【全体】 -----</p> <p>○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に拡大したアートカードを掲示し、「オノマトペ」カードについても紹介する。 ・「オノマトペ」カードを1枚児童に引かせ、出てきたオノマトペに合うカードを心の中で選ばせる。 ・「せーの!」と合図をし、机の上で選んだカードを指ささせる。 ・グループの中で、順番になぜそのアートカードを選んだのか、カードをグループ内に見せながら説明させる。 ・同じアートカードを選んでいても、自分の言葉で説明するようにさせる。 <p>----- 【グループ】 -----</p> <p>○グループに分かれて、活動をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オノマトペ」カードを各グループに配る。 ・リーダーを決めさせ、リーダーに進行を任せる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*「オノマトペ」カードは配らず、教師が最後まで進行を行ってもよい。</p> </div>
<p>ふりかえり</p> <p>8分</p>	<p>5.全体で感想を共有する。</p>	<p>○全体で感想を共有させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じカードでも、違うイメージをもった場合などを紹介するなど、感じ方の違いを大切にしたい。

題材の Point 様々な視点で作品を見る

対象 学年 3・4年

配当 時間 45分

5. マッチング トーク



学習のめあて

形や色などの感じを大切に、作品の共通点を見つけよう。

題材の目標

形や色などの感じを基に、形や色の面白さや組み合わせの感じをとらえる。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

- ・自分の感覚を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえる。
- ・感じたことを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりすることによって、作品のよさや面白さを感じとる。

材料や用具

- 【教師】**
- ・アートカード
 - ・拡大したアートカード10～15枚(黒板掲示用)
- 【児童】**
- なし

題材の 評価規準の例

【造形への関心・意欲・態度】
形や色に注目し、作品のよさや面白さを感じとっている。

【鑑賞の能力】
自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりしながら、形や色の面白さや組み合わせの感じをとらえようとしている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入)</p> <p>7分</p>	<p>1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。</p> <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。</p> <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。</p>
		----- 【全体】 -----
	<p>3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。 ・黒板に提示してある拡大されたアートカードを見て、共通点のあるカードを並べていく作業を知る。</p>	<p>○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 ・黒板に拡大したアートカードを10～15枚掲示する。 ・形、色、イメージを共通点にして、1枚のカードを起点にカードを上下左右に並べていく。 例)「まる」つながり、「赤」つながり、「白いしかく」つながり、「青い空」つながり、など。 ・ななめには共通点を見つけても並べられないことを伝える。</p>
		----- 【グループ】 -----
<p>ひろがり (展開)</p> <p>28分</p>	<p>4.グループに分かれ、活動をする。 ・カードを一度集め、1人3枚配る。残ったカードは裏にして山をつくり、机の中心に置く。 ・グループ内の順番を決め、最初の児童が山から1枚カードを取り、机の中心に置く。 ・山から取ったカードと手持ちのカードの共通点を探す。 ・見つけた共通点をグループ内に伝え、お互いに共通点を確認したら、手持ちのカードを山から取ったカードのとなり(上下左右)に置く。 ・次の人は机上の2枚のカードどちらかと、手持ちのカードの共通点を探し、グループ内に伝える。 ・同じ要領で、順番に手持ちのカードがなくなるまで続ける。 ・共通点が見つからない場合は、山からカードを1枚引く。(そのカードはその時に使っても使わなくてもよい)</p>	<p>○活動のルールを伝える。 ・手持ちのカードを並べ終えることが目的ではなく、さまざまな共通点を見つけ、グループで共有することが目的であることを伝える。 ・思いもよらない共通点が見つかったときは、「なるほど!」と言ったり、拍手をしたりと、積極的に相手の意見を受け入れる環境をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*同じ共通点は何度も使わないように促す。</p> </div>
<p>ふりかえり</p> <p>10分</p>	<p>5.他のグループがどのように並べているかを見に行く。</p> <p>6.全体で感想を共有する。</p>	<p>○他のグループの並べ方を見に行かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*時間を分けて、見る人と説明する人に分けてもよい。</p> </div> <p>○全体で感想を共有させる。</p>

題材の Point 言葉と作品をつなぐ

対象 学年 3・4年 配当 時間 45分

6. イエス・ノー トーク



学習のめあて

作品を見ることや作品から感じたことを伝え合う活動を楽しむ。

題材の目標

感じたことや思ったことを話したり、友だちと話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かる。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

- ・身近にある作品などを鑑賞することを通して、鑑賞のよさや面白さを感じとる。
- ・対象を他者と共有し、よさをとらえたり、自分なりに面白いと思ったりする。

材料や用具

【教師】

- ・アートカード
- ・付箋

【児童】

なし

題材の 評価規準の例

【造形への関心・意欲・態度】

- ・自分たちの作品や身近にある美術作品などのよさや面白さを自分の思いで味わおうとしている。
- ・身近にある美術作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。

【鑑賞の能力】

- ・感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方や材料による感じの違いなどをとらえ、よさや面白さを感じとっている。

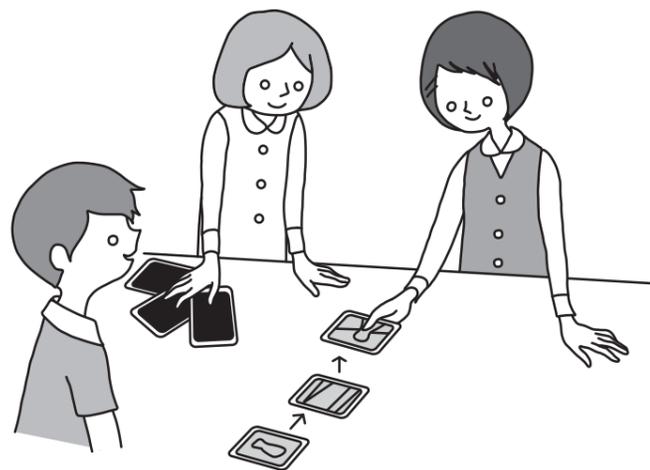
活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入)</p> <p>7分</p>	<p>1.アートカードにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アートカードの紹介をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 ○カードの作品を自由に鑑賞させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。
<p>ひろがり (展開)</p> <p>30分</p>	<p style="text-align: center;">-----【全体】-----</p> <p>3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が選んだアートカードを見つけるために、グループで相談して形、色、イメージに注目し、イエスカノーで答えられる質問をつくる。 <p>例)「そのカードに赤は使われていますか?」 「そのカードに動物は描かれていますか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた質問を教師に投げかけ、その答えから、教師が選んだアートカードを推理する。 <p style="text-align: center;">-----【グループ】-----</p> <p>4.グループで活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の役割を、グループ内で順番に行う。 ・推理する人は、考えた質問を付箋に書く。 ・グループ内で1周質問が終わったら、どのアートカードを選んだのか当てる。 ・以上の活動を時間がくるまで、くり返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に拡大したアートカードを数枚掲示し、教師はその中から1枚を選び、心の中で決める。 ・心の中で教師が1枚のアートカードを選んだことを児童に伝える。 ・教師が選んだカードを見つけるために、形、色、イメージに注目させ、イエスカノーで答えられる質問をグループごとに考えさせる。 ・グループごとに教師に質問をさせ、イエスカノーで答える。 ・全グループの質問が終わったところで、どのカードを教師が選んだのか、児童に当てさせる。 ○グループに分け、活動をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を配り、質問は付箋に書かせる。
<p>ふりかえり</p> <p>8分</p>	<p>5.活動のふり返りとして、書いた付箋を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を一箇所に集め、書かれた質問を「形」「色」「イメージ」のどれに注目した質問なのか、分類する。 <p>6.全体で感想を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○付箋から、アートカードで見つけた「形」「色」「イメージ」に注目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を一箇所に集めさせ、書かれた質問を「形」「色」「イメージ」のうち、どれに注目した質問なのか、分類させる。 ○全体で感想を共有させる。

題材の Point **自分らしい見方ができる**

対象 学年 **3・4年**

配当 時間 **45分**

7. お話をつくらう



学習のめあて

形や色から感じたことを基に物語をつくりながら、イメージを広げる。

題材の目標

アートカードの作品から感じたことを活かして、自分なりのイメージをもつことができる。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

・複数のアートカードから形や色を手がかりにして、さまざまな物語を想像することを通して、作品を多角的にとらえる。
・物語をつくったり、友だちの物語を聞いたりする言語活動を通し、表現力を豊かにする。

材料や用具

- 【教師】**
- ・アートカード
 - ・拡大したアートカード(黒板掲示用、あるとよい)
 - ・ワークシート(参考p.40)
 - ・プロジェクター(あるとよい)
 - ・実物投影機(あるとよい)
- 【児童】**
- なし

題材の 評価規準の例

【造形への関心・意欲・態度】
アートカードから印象や物語を自分らしい見方や感じ方でイメージしようとしている。

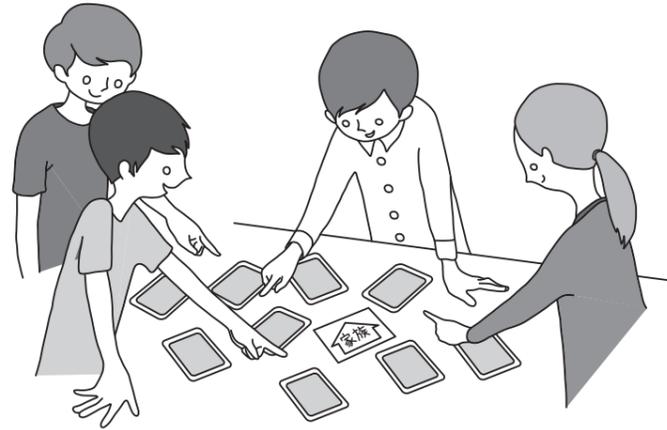
【鑑賞の能力】
自分のイメージを話したり、簡単な文章で書いたりしながら、美術作品のよさや面白さを感じとっている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入)</p> <p>10分</p>	<p>1.アートカードにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 <p>2. 掲示されたアートカードをよく見て、そこから感じられるものをみんなで発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これは、アートカードセットにある1枚のカードです。よく見てみましょう。カードの中の世界はどんな世界かな?みんなで考えてみよう。(下記は質問例)</p> </div> <p>何時ごろかな? 音は聞こえる? 風は吹いている? どんなにおい? 暑い?寒い? どんなことを話してる?</p>	<p>○アートカードの紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 <p>○1枚のアートカードをよく見させ、さまざまな情報を取り出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚のアートカードを実物投影機や拡大印刷したものを使って子どもたちに提示する。 ・そのカードから感じられる季節や、温度、匂い、音、風、などを自由に発表させる。 ・子どもたちから出てきた言葉を板書して、カードから感じられたものを視覚化する。 ・子どもたちから意見が出ない時は左記のような投げかけをして、発想を促す。
<p>ひろがり (展開)</p> <p>25分</p>	<p>3.グループに分かれ、物語をつくる。</p> <p>【展開1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の上に広げたカードの中から好きな2枚を選び、選んだカードをつなげて物語をつくる。 ・つくった物語は、グループの中で発表する。→友だちがつくった物語には拍手をする。 <p>【展開2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開1で使ったアートカードを集め、裏にしてシャッフルをする。その中から1枚カードを選ぶ。 ・グループ全員がカードを選んだら、もう一度カードを表向きにして並べる。 ・机の上から順番に1枚ずつ、2枚のカードを取る。 ・裏向きで引いたカードと表向きで選んだ2枚、合計3枚のカードで新しい物語をつくる。 ・物語ができたら、ワークシートに記録する。 ・グループの代表作を相談して決め、全体に発表する。 	<p>○グループに分け、物語をつくらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容をより明確に児童へ伝えるために、拡大したアートカードを使い、教師が模範のストーリーを示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>*物語は、出来るだけ聞いている人が不愉快な気持ちにならないよう、「楽しい気持ちになれるもの」「幸せな気持ちになれるもの」が望ましいことを事前に伝えておく。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのつくった物語を聞いたら、拍手をさせる。→友だちのアイデアをお互いに尊重できるようにしたい。
<p>ふりかえり</p> <p>10分</p>	<p>4. 活動のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートカードから感じたこと、物語をつくった感想、友だちの物語を聞いた感想などをワークシートに記述する。 ・全体で感想を共有する。 	<p>○活動のふり返しとまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに感じたことを記入させる。 ・最後に、自分が感じたこと、友だちが感じたこと、その両方を大切に出来るよう、全体の感想を共有させ、まとめる。

題材の Point **思いをもって作品を見る**

対象 学年 **5・6年** 配当 時間 **60分**

8. ○○のための とっておき!の 1枚!!



学習のめあて

思いをもって作品を見ることや、作品から感じたことを伝え合う活動を楽しむ。

題材の目標

目的に合った作品を選び、自分の思いを伝え合う活動を通して、さまざまな見方や感じ方があることに気づき、作品に親しみをもつ。

**対象学年の
【共通事項】**

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

**育みたい
資質や能力**

- ・作品から感じとった、よさや美しさなどを自分の言葉で表し、伝えようとする。
- ・作品について、さまざまな見方や感じ方があることに気づく。

材料や用具

【教師】

- ・アートカード
- ・拡大したアートカード(黒板掲示用)
- ・「とっておき!」カード(p.41) *各グループに1セット
- ・ワークシート

【児童】

筆記用具

- ・家族へ ・20年後のわたしへ
- ・敬老の日 ・○○さんの誕生日
- ・テストで100点をとった友だちへ
- ・友だちとけんかをしてしまった人へ
- ・まだ会ったことのない外国の友だちへ など

**題材の
評価規準の例**

【造形への関心・意欲・態度】
自分らしい見方や感じ方を大切にしたり、自分の思いをもって作品を味わおうとしている。

【鑑賞の能力】
他者の視線に寄りそって、表現の意図や特徴などをとらえている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
であい (導入) 10分	<p>1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。</p> <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。</p> <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。</p>
ひろがり (展開) 40分	----- 【全体】 -----	
	<p>3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。</p>	<p>○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 ・拡大したアートカードを何枚か用意し、黒板に掲示し、「○○先生のためのとっておきの1枚は、どれだろう」と児童に投げかける。 ・代表で何人かの児童に、そのカードを選んだわけを発表させる。</p>
ふりかえり 10分	----- 【グループ】 -----	
	<p>4.グループ(4～5人)に分かれて行う。 ・活動のルールを知る。 ・初めの1回は、教師の説明を聞きながら全部のグループがいっしょに進める。 ・並べたアートカードの中央に「とっておき!」カードを裏にして重ね、置く。 ・「とっておき!」カードを引く順を決める。 ・1番目の人が「とっておき!」カードを1枚めくり、そのカードの内容にぴったりなカードをそれぞれが選び、「せーの!」で指さす。 ・自分が選んだカードを手にとって見せながら、選んだ理由を1人ずつ発表しあう。また、友だちの意見を聞きながら、感じたことなどを自由に伝えあう。 ・選んだアートカードは机に戻し、終わった「とっておき!」カードは表のまま、机の中央に置く。 ・つづけてグループで行う。</p> <p>5.わたしが今、一番プレゼントをしたい人のための「とっておきの1枚!」を選び、発表し合う。 ・「とっておき!」カードは使わず、アートカードの中から自分が今、プレゼントしたい人にぴったりな作品を選び、ワークシートにプレゼントを贈る相手や選んだ理由を記入する。 ・グループ内で発表し合う。</p>	<p>○グループに分け、活動をさせる。 ・各グループに「とっておき!」カードを配る。 ・活動のルールを伝える。</p> <p>○グループ内で、個人の活動をさせる。 ・ワークシートを配り、自分が今一番プレゼントしたい人へのアートカードを選ばせる。 ・ワークシートに、プレゼントを贈りたい相手やアートカードを選んだ理由などを記入させる。 ・グループ内で発表させる。</p>
<p>6.活動した感想を全体で発表し合う。</p>	<p>○活動をふり返り、全体場で感想を発表させる。</p>	

題材の Point 言葉と作品のつながりを探す

対象 学年 5・6年 配当 時間 25分

9. イメージしりとり



学習のめあて

アートカードを使った活動を通して、作品を見ることや作品から感じたことを伝え合う活動を楽しむ。

題材の目標

友だちとの交流の中で、作品をよく鑑賞することにより、表現の特徴などをとらえる。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

- ・作品から感じとった、よさや美しさなどを自分の言葉で表し、伝えようとする。
- ・作品について、さまざまな見方や感じ方があることに気づく。

材料や用具

- 【教師】**
- ・アートカード

【児童】
なし

題材の 評価規準の例

- 【造形への関心・意欲・態度】**
自分らしい見方や感じ方で作品を味わおうとしている。
- 【鑑賞の能力】**
友だちと話し合ったりしながら、表現の特徴などをとらえている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
であい (導入) 10分	<ol style="list-style-type: none"> 1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 ○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。
----- 【全体】 -----		
ひろがり (展開) 10分	<ol style="list-style-type: none"> 3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。 ・アートカードに描かれているをよく見て言葉をイメージし、しりとりをする事を知る。 4.グループに分かれ、活動を行う。 ・教師に指定された最初の1枚を探し、机の中央に置く。 ・順番を決め、最初の1枚を起点にカードを選んでしりとりをし、使ったカードは最初の1枚の右に並べていく。 ・2週目は、1週目と順番を変えてしりとりをし、今度は最初の1枚の左に並べていかせる。 5.グループの中で、活動をふりかえる。 ・同じカードから始めても、1週目と2週目でまったく異なるしりとりになったことを確認しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 ・拡大したアートカードを使い、カードに描かれていることから言葉をイメージし、しりとりをすることを伝える。 ・カードを出すと同時に、そのカードからイメージした言葉を使う。 ・普通のしりとりのように、単語でなくても良いことを伝える。 例) あおいへ(や)→(や)ねがまっすぐない(え)→(え)っ!とおどろいている(る)→(る)んるとしたきもち ○グループに分け、活動をさせる。 ・最初の1枚を教師が指定する。 ・1週目は、最初の1枚から順番にしりとりをしながら、選んだアートカードを順番に右に並べさせる。 ・2週目は、しりとりをする人の順番を変え、今度は最初の1枚の左に並べさせる。 <div style="text-align: center;"> <p>はじめの 1枚</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で、個人の活動をさせる。 ・同じカードから始めても、1週目と2週目でまったく異なるしりとりになったことに気づかせる。
----- 【グループ】 -----		
ふりかえり 5分	<ol style="list-style-type: none"> 6.他のグループがどのように並べているかを見に行く。 7.全体で感想を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のグループの並べ方を見に行かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>*時間を分けて、見る人と説明する人に分けてもよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○全体で感想を共有させる。

題材の Point 作品から言葉をつむぐ

対象 学年 5・6年 配当 時間 50分

10. カルタを作ろう



学習のめあて

作品の内容や色や形から感じたことを、自分の言葉で表現する。

題材の目標

造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じとり、作品などに対する思いや考えを言葉で表現し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げる。

対象学年の (共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい 資質や能力

・自分の見方や感じ方を大切にしながら、友だちと話し合い、自分一人では気づくことのできない見方や感じ方に気づき、それを言葉として表現する。

材料や用具

- 【教師】
- ・ アートカード
 - ・ 実物投影機(あるとよい)
 - ・ 読み札(p.42)
- 【児童】
- なし

題材の 評価規準の例

- 【造形への関心・意欲・態度】
美術作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。
- 【鑑賞の能力】
文章に表したりしながら、作品のよさや美しさを味わっている。

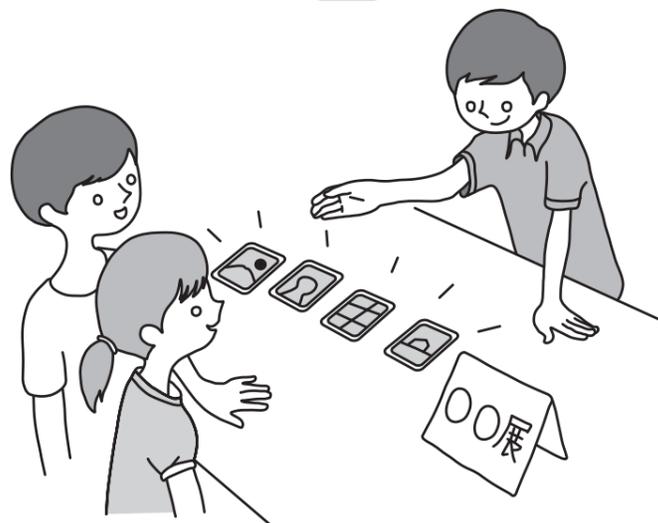
活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
であい (導入) 10分	<p>1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。</p> <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。</p> <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。</p>
		-----【全体】-----
	<p>3.教師と『試しの活動』をしながら活動の進め方を知る。 ・教師が選んだアートカードに対する読み札をグループごとにつくる。 ・どんな感じがするか、作品に現れているもの、隠れているものなどをグループで相談しながら考える。 ・グループごとに読み札を発表する。</p>	<p>○全体で『試しの活動』をすることで、活動の内容をつかませる。 ・教師が選んだアートカードを絵札として、それに合った読み札をグループごとにつくらせる。 ・どんな感じがするか、作品に現れているもの、隠れているものなど、表面的ではなく多面的に考えさせる。 ・各グループの読み札を発表させる。</p>
		-----【グループ】-----
ひろがり (展開) 32分	<p>4.グループに分かれ、活動をする。 ・1人1枚カードを選んだら、残るカードを一度まとめる。 ・選んだカードについて、読み札をつくる。 ・時間が余ったら、2枚、3枚と読み札をつくってもよい。</p> <p>5.グループをシャッフルし、カルタをする。 ・絵札に選んだアートカードを他のカードといっしょにする。 ・書いた読み札を持って、新しいグループに移る。 ・順番に読み札を読んで、カルタをする。</p>	<p>○グループに分け、活動をさせる。 ・白の読み札を配布する。 ・描かれているものや形、色など、カード選びの目安を提示する。 ・時間が余っている児童には、読み札を多めに書かせる。</p> <p>○グループをシャッフルし、カルタをさせる。 ・絵札に選んだアートカードを片付けさせ、グループを新しくつくる。 ・読み札をもって、新しいグループに移動させる。 ・新しいグループでカルタをすることで、どのカードに対する読み札かわからず、先入観なくカルタを行うことができる。</p>
ふりかえり 8分	<p>6.活動のふり返りと感想の共有をする。 ・ワークシートに、選んだアートカードのスケッチや、読み札の文章、活動の感想などを記入する。 ・全体で感想を共有する。</p>	<p>○活動のふり返りと感想の共有をさせる。 ・ワークシートに、選んだアートカードの簡単なスケッチや、読み札の文章、活動の感想などを記入させる。 ・全体で感想を共有させる。</p>

題材のPoint 美術館での鑑賞につながる

対象学年 5・6年

配当時間 60分

11. 展覧会をつくらう (小学生編)



学習のめあて

アートカードを使って、たくさんの美術作品に触れる中で、作品から得た自分の印象や友だちの感覚を大切に、ミニ展覧会を企画する。

題材の目標

感じたことや思ったことを話したり、友だちと話し合ったりするなどして、表現の意図や特徴などをとらえる。

対象学年の(共通事項)

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

育みたい資質や能力

- ・地域の美術館のたくさんの作品(アートカード)と出会う中で、自分なりに作品のよさを感じとる。
- ・ミニ展覧会を企画し全体に発表すると同時に、他のグループのミニ展覧会を鑑賞し、それぞれの企画のよさや、作品を構成する要素を感じとる。

材料や用具

- 【教師】
- ・アートカード
 - ・ワークシート(2種類、p.43、44)
 - ・カードスタンド(あるとよい)
 - ・付箋
 - ・展示用具(あるとよい、参考p.45)
 - ・カメラ(あるとよい)
- 【児童】
- 筆記用具

題材の評価規準の例

- 【造形への関心・意欲・態度】
作品のよさや美しさを自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。
- 【鑑賞の能力】
作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、表現の意図や特徴などをとらえている。

活動の展開 所要時間	児童の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい(導入)</p> <p>10分</p>	<p>1.アートカードにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アートカードの紹介をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 ・アートカードの作品が横須賀美術館の所蔵作品であることを伝える。 ○カードの作品を自由に鑑賞させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、各グループを回り、児童の見方や言葉などによりそい、共感する。
<p>ひろがり(展開)</p> <p>40分</p>	<p>3.【展開1】お気に入りの1枚。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートカードの中から「お気に入りの1枚」を見つける。 ・カードを選んだ理由を付箋に書き、アートカードの裏に張り付ける。 ・グループ内で、選んだカードを見せながら、書いた付箋を参考にして、気に入ったところを発表しあう。 <p>※このとき、同じカードが選ばれても構わない。 その場合、「カードを選んだ理由」の付箋はカードの裏に複数貼られることとなる。</p> <p>4.【展開2】ミニ展覧会を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのお気に入りの1枚を集めて、共通点(形・色・イメージ)を探す。(例)まる、てんてん、赤、わくわく、不思議、など ・共通点を手がかりに各グループで、ミニ展覧会のテーマ・タイトルを考える。 ・グループの全員で協力し、残りのアートカードからミニ展覧会に相応しい1枚を選ぶ。 ・そのカードにも3同様、選んだ理由を付箋に書いてカードの裏に張り付ける。 ・各自で選んだカード(グループ人数分)+グループで選んだカード(1枚)のアートカードを(カードスタンドに)展示し、話し合いながら展示の順番や位置を考える。 <p>5【展開3】ミニ展覧会の鑑賞をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートIII(p.44)を使って発表の準備をし、各班2分程度の発表をする。(発表側) ・ワークシートをもとに、グループで選んだ共通点が形・色・イメージのうちのどれかを発表する。 ・各自がお気に入りの1枚を見せ、どの部分がグループの共通点なのかを指し示す。 ・タイトルを発表する。(鑑賞側) ・発表グループの共通点(形・色・イメージのうちどれか)をもとに、お気に入りの1枚のなかで指をさされた場所に注目し、タイトルを予想する。 ・タイトルが発表されたら、感じたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お気に入りの1枚を探させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートI(p.43上部)を配付する。 ・1人1枚、お気に入りの1枚を探させる。 ・お気に入りの1枚の裏に付箋を貼り、名前と気に入った理由を記入させる。 ○ミニ展覧会を企画させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートII(p.43下部)を配付する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>*カードスタンドや展示用具(p.45)を用意してもよい。 *どのような活動をするのか、教師がデモンストレーションをしてもよい。 *展示した光景を写真に撮影してもよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ミニ展覧会の鑑賞をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートII(p.44)を配布し、発表の準備をさせる。 ・各班2分程度の発表をさせる。 ・ワークシートに則して、発表者・鑑賞者それぞれの役割を明確にし、意識させる。
<p>ふりかえり</p> <p>10分</p>	<p>6.活動のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに活動の感想などを記入する。 ・全体で感想を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動のふり返しと感想の共有をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに活動の感想などを記入させる。 ・全体で感想を共有させる。

題材の Point 作品の魅力に迫る

対象 学年 中1年 配当 時間 50分

12. 自分美術館・題名をつけよう



学習のめあて

作品の題名を考えるを通し、美術作品のよさや美しさを感じとる。

題材の目標

作品の題名を考えることで、造形的なよさや美しさ、対象のイメージをとらえ、見方を深める。

対象学年の (共通事項)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること
イ 形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえること

育みたい 資質や能力

- ・ 作品の題名を考えるを通し、主体的に作品のよさや美しさを感じとり、美術文化に対する関心を高める。
- ・ 発表を通し、多様な価値意識に触れ、自他の感じ方を尊重する姿勢を養うとともに、作品に対する見方を深める。

材料や用具

- 【教師】
- ・ アートカード
 - ・ 実物投影機(あるとよい)
 - ・ 記入用紙(ワークシートを作るとよい)
 - ・ 題名用台紙(参考、P.45)
- 【生徒】
- 筆記用具

題材の 評価規準の例

- 【美術への関心・意欲・態度】
作品の内面を深く読みとろうとし、題名をつけることに意欲的に取り組んでいる。
- 【鑑賞の能力】
さまざまな視点から作品を鑑賞し、自分なりの考えを大切にしながら題名を考えている。

活動の展開 所要時間	生徒の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入)</p> <p>5分</p>	<p>1.アートカードにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいを知る。 ・ 4～5人のグループをつくる。 ・ カードの扱い方を知る。 <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<p>○アートカードの紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 <p>○カードの作品を自由に鑑賞させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師は、各グループを回り、生徒の見方や言葉などによりそい、共感する。
		-----【全体】-----
	<p>3.鑑賞し、題名をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が惹かれた作品を1点選ぶ。 ・ 自分が選んだ作品を記入用紙に大まかにスケッチしながら鑑賞する。 ・ 作品を鑑賞して気づいたこと、見えたものなどを言葉で表現して記入用紙に書き出す。 ・ 書き出した言葉をヒントに、作品に自由に題名をつけ、題名にいたった理由を記入する。 	<p>○鑑賞をさせ、題名をつけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配布。 ・ 各自、気になった作品を1点選ばせる。 ・ スケッチすることで見えてくる物や気づくことがあることを伝え、選んだ作品を、大まかにスケッチさせる。 ・ 気づいたこと、見えたものなどをどんどん言葉に表現させる。 ・ 書き出した言葉をもとに、作品の題名をつけさせる。
		-----【グループ】-----
<p>ひろがり (展開)</p> <p>40分</p>	<p>4.発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で発表し合い、それぞれの感じ方や物の見方を理解し合う。 ・ グループ毎に代表者を1名選び、発表者は、なぜその題名にしたか、自分なりの見方や、解釈を2～3分にまとめて発表する。 ・ 記入用紙に発表から気づいたこと、共感したことなどをメモしながら聞く。 	<p>○発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で発表させ、それぞれの感じ方や物の見方を理解させる。 ・ グループ毎に代表者を1名選ばせ、発表者には、なぜその題名にしたか、自分なりの見方や、解釈、テーマとの関連を2～3分にまとめて発表させる。 ・ 聞き手の態度に留意する。
<p>ふりかえり</p> <p>5分</p>	<p>5.全体の感想を共有する。</p>	<p>○全体の感想を共有させる。</p>

題材のPoint 美術文化への関心を高める

対象学年 中1年

配当時間 60分

13. 展示会をつくらう (中学生編)



学習のめあて

展示会の企画を考えるを通し、作品等に対する思いや考えを話し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げる。

題材の目標

展示会の企画を通し、主体的に美術作品のよさや美しさなどを感じとり、美術文化に対する関心を高める。

対象学年の (共通事項)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること
 イ 形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえること

育みたい 資質や能力

- ・展示会の企画を考えることで、さまざまな視点から作品について考える。
- ・美術作品に対する見方を広げ、美術文化に対する関心を高める。

材料や用具

- 【教師】**
- ・アートカード
 - ・ワークシート(2種類、p.44)
 - ・カメラ(あるとよい)
 - ・題名用台紙(p.45)
 - ・あいさつ文の見本プリント
- 【生徒】**
- 筆記用具
- 作品が展示できるような仕掛けがあるとよい
- 展示会づくりについては活動の流れに応じてつくってください

題材の 評価規準の例

【美術への関心・意欲・態度】
 美術文化に関心を持ち、主体的にそのよさや美しさを感じとろうとしている。

【鑑賞の能力】
 造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、作者の心情や意図と表現の工夫、主題と表現技法の選択や材料の活かし方などを感じとり、自分の思いや考えをもって味わっている。

活動の展開 所要時間	生徒の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
<p>であい (導入)</p> <p>5分</p>	<p>1.アートカードにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを知る。 ・4~5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 <p>2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アートカードの紹介をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 ○カードの作品を自由に鑑賞させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、各グループを回り、生徒の見方や言葉などによりそい、共感する。
<p>ひろがり (展開)</p> <p>50分</p>	<p style="text-align: center;">----- 【グループ】 -----</p> <p>3.展示会テーマを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを鑑賞しながら、「グループのテーマ」をお互いの意見を交換しながら班員全員で考える。 ・相手の意見や自分の意見を尊重しながらテーマを決める。 ・決定したテーマと理由をワークシートに記入する。 <p>4.作品を選出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示するアートカードを会議しながら、テーマにそって5~6点選び出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>*役割分担を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごあいさつ」文係 ・作品の「題名」係 ・「展示」については、全員で相談させる。 </div> <p>5.展示会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごあいさつ」の文をワークシートにまとめる。 ・作品の「題名」を各アートカードに付ける。 ・全員でアートカードを展示会風に展示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>*デジタルカメラがあれば、できあがった展示会を撮影する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備をする。あいさつ文、作品の題名、展示会の構成をグループ内で共有する。 <p>6.発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、ワークシートにそって発表をする。 ・発表を聞きながら、各展示会の感想をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○展示会のテーマを決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アートカードを鑑賞させながら、グループのテーマを決定させ、理由も考えさせる。 ○作品を選ばせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・展示するアートカードをテーマにそって、5~6枚選ばせる。 ・展示会のテーマ決め、作品の選出において、自分の意見、相手の意見を尊重しあうよう伝える。 ○展示会をつくらせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ文(展示会テーマについて、分かりやすく伝える内容の文章)の見本を配布。 ・役割分担にそって、自分の分担作業を進めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>*展示会図録のあいさつページのコピーを配付してもよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにワークシートにそって発表をさせる。(1グループ2分を目安にする) ・聞いている生徒には、聞きながらワークシートに感想を記入させる。
<p>ふりかえり</p> <p>5分</p>	<p>7.活動のふり返りと感想の共有をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、活動の感想などを記入する。 ・全体で感想を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動のふり返りと感想の共有をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、活動の感想などを記入させる。 ・全体で感想を共有させる。

題材の Point 作品を通して自己を見つめる

対象 学年 中2・3年

配当 時間 60～80分

14. アートカード なりきり話

— 作品から自己を見つめて



学習のめあて

自分の価値意識をもって作品を鑑賞することを通し、考えや思いを深める。

題材の目標

主体的に美術作品の鑑賞に親しむ態度を育て、本質的なよさや美しさを自己の価値意識を持って味わう。また他者との交流により、多様な価値に触れ、美意識を高め幅広く美術作品を味わう。

対象学年の (共通事項)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること
イ 形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえること

育みたい 資質や能力

- ・自分の知識や経験を活かし、作品の中に見つけた色や形、ものに、自己を投影させ、自分なりの意味や価値を見いだしながら、作品を感じたり味わったりする。
- ・他者との交流を通し、個の良さや違いを感じ、多様な見方や感じ方を理解しようとする。

材料や用具

【教師】

- ・アートカード
- ・付箋
- ・ワークシート(p.46、47)

【生徒】
筆記用具

題材の 評価規準の例

【美術への関心・意欲・態度】
自分の価値意識をもって作品の本質的なよさや美しさを主体的に感じとろうとしている。

【鑑賞の能力】
形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさを感じとり、自分の価値意識をもって味わっている。

活動の展開 所要時間	生徒の活動の流れ	教師の役割/指導のポイント (共通事項)との関連など
であい (導入) 10分	<ol style="list-style-type: none"> 1.アートカードにふれる。 ・本時のねらいを知る。 ・4～5人のグループをつくる。 ・カードの扱い方を知る。 2.配られたカードを表にして並べ自由に鑑賞する。 3.自分を表しているアートカードを1枚選ぶ。 この中に、自分はいませんか? あなたの気持ちや性格を表しているような作品はありますか? 	<ul style="list-style-type: none"> ○アートカードの紹介をする。 ・グループをつくり、各グループにカード(1セット)を配る。 ○カードの作品を自由に鑑賞させる。 ・教師は、各グループを回り、生徒の見方や言葉などによりそい、共感する。 ○今の自分を表現しているアートカードを探させる。 ・見つからない生徒には、作品に何が描かれているかを確認させ、色や形に何かの理由をつけてみるアドバイスをする。自分を投影させる具体的なものがイメージできるとよい。 ・選ぶアートカードは他者と同じでもよい。
ひろがり (展開) 40分	<ol style="list-style-type: none"> 4.選んだ作品との出会いを楽しむ。 5.自分が作品の中の何であるか決める。 ・「私は○○です。」をはじめのスタートにし、どんな考えを持ってその中に存在するのか、なぜ作品にいいのか、この中で何を考えているのか、色や形、場所、温度なども考えて書き出す。 6.グループで意見を交流する。 ・1人1分程度でワークシートに書いたことをもとに、発表をする。 ・聞く人は、付箋に感想を書く。 7.全体の発表。 ・互選でグループの代表を選び、発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の見方で鑑賞することで、作品との出会いを楽しませる。 ・選択したカードに対して特別な思いが持てるようにする。 ○作品の中の何になりきるかを決めさせる。 ・ワークシート配布。 ・なぜこのカードを選んだのか、理由を記述させる。 ・自分の知識や経験をいかし、見つけた色や形に自分なりの意味や価値を見つけ、個々で考えさせる。 ・自己の考えを投影できるような声かけをする。 ○グループごとに意見を交流させる。 ・発表の手順を固定し、鑑賞に集中させる。 ・個々の価値観を交流させることで、作品の見方や考え方を発展させる。 ・聞いている生徒には、感想(相手の考えの面白さなど)を付箋に書かせる。 ○全体で発表させる。
ふりかえり 10～30分	<ol style="list-style-type: none"> 5.全体の感想を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> (○発表を踏まえて、自分のカードについてももう一度考えさせる。) ・個々の価値観で作品をとらえる良さを確認させる。 ・今と未来では感じ方も変わってくる。その時々感じ方、価値意識を大事にさせるような声かけをする。 ○発表後の感想を全体で共有させる。